

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 鳴水 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

#### 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

#### 児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

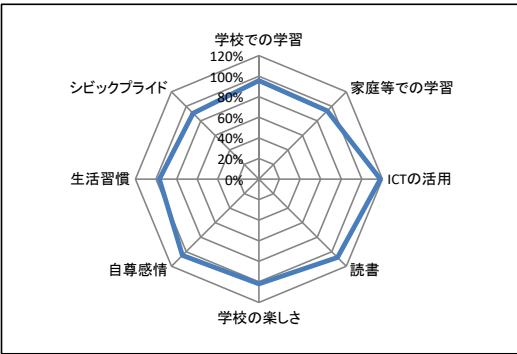
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を上回っている。話し手の考えを比較しながら、自分の考えをまとめる問題では、高い正答率を示した。一方で、事実と感想、意見などの問題の叙述を基に、要旨を把握する問題では課題が見受けられた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	話し手の考えを比較しながら、自分の考えをまとめること（思考・判断・表現）	
	努力が必要な問題	事実と感想、意見などの問題の叙述を基に、要旨を把握すること（思考・判断・表現）	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を上回っている。はかりの目盛りを読む問題、異分子の分数の計算する問題では、高い正答率を示した。一方で、「増量」の意味を解釈し、何倍になっているかを表す問題では課題が見受けられた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	はかりの目盛りを読むこと（知識・技能）、異分子の分数の計算すること（知識・技能）	
	努力が必要な問題	「増量」の意味を解釈し、何倍になっているかを表すこと（思考・判断・表現）	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回っている。海面水位の上昇した理由を予想し、表現する問題では、高い正答率を示した。一方で、水の温まり方について、解決するための観察、実験の方法であるかを検討し、表現する問題では課題では課題が見受けられた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	海面水位の上昇した理由を予想し、表現すること（思考・判断・表現）	
	努力が必要な問題	水の温まり方について、解決するための観察、実験の方法であるかを検討し、表現すること（思考・判断・表現）	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<p>○「学校に行くのは楽しい」（95%）「普段の生活の中で、幸せな気分になる」（92%）「人の役に立つ人間になりたいと思う」（100%）など、肯定的な回答が見られた。今年度の本校の研究主題を継続して行い、児童の自己肯定感や自己有用感の向上に努める。</p> <p>○学習面では、「思考・判断・表現」を評価する問題への課題が見受けられる。話し合い活動の充実を図り、また、自分で考えたり、友達の考えを聞いたりすることで課題解決のための方法を見付けながら、今年度のスクールプラン重点課題に取り組む。前述に加え、ICTを活用した学習について、肯定的な回答が見られたため、継続して行っていく。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

国数理ともに、「思考・判断・表現」を評価する問題への課題がある。前期前半の取組の振り返りを行い、話し合い活動を「深めること」「まとめること」の強化に取り組んだ。今後もICTの活用も含めながら、児童の実態に合わせた授業改善に取り組んでいく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

「授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか」に対して、「全くしない」と回答した児童が全体の約40%であった。そのため、家庭での読書の機会が少ないことが考えられる。本校独自の「読み聞かせ」を継続していくことと、長期休みに本の貸出を行うなど、家庭での読書の推進を促す。